
(二百字小説) 彼と私の或る日の会話

みくも

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

(二百字小説) 彼と私の或る日の会話

【コード】

N2208K

【作者名】

みくも

【あらすじ】

「彼」と「私」のとある会話。ただ二人の間には、「彼女」の死体が横たわる。

「仕方のない話だと思わないか？」

「いいや、もっと違う方法があった筈だ」

「なかったさ」

彼は冷たい眼で言った。

私は恐ろしさを隠す様に、顔を背けた。

私と彼の間には、どんどんと熱を失って行く彼女の体が横たわっている。

「馬鹿な事だ。嫌になったのなら殺すのではなく、巧い言い分けを考えて別れるものだ」

「嫌ではないさ」

「では何故」

「殺したい程好きなのに、彼女は解ってくれなかった」

彼の内に、激しい狂気が渦巻いていた。

(後書き)

Copyright (C) 2010 mikumo/1979.
All rights reserved.

二百字小説習作。

(段落部分の一字スペースは文字数に数えていません)

お気づきの事などございましたら「指摘下さい」。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2208k/>

（二百字小説）彼と私の或る日の会話

2010年11月16日10時22分発行